

Ⅲ. 実学教育の取組み

Ⅲ-1. 社会貢献と経済学

Ⅲ-1-1 (1) 取組の概要

この講義は、社会で活躍している社会人と大学で専門科目を教えている教員とのコラボレーションである。経済学を学ぶことで身につくアカデミック・スキルはたくさんある。たとえば、論理的思考能力、数的処理能力、問題発見・解決能力などである。しかし、この経済学の学問内容に関しては必ずしも就業力との関連が明確になっているわけではない。そこで、この両者の関係を明確することで、大学生活における目的意識を持ってもらうことが重要である。それを行うのが、この「社会貢献と経済学」である。そのために、社会で活躍している人が仕事をする上で経済学をどれだけ意識しているか具体的に話をしてもらい、その経験を元に特定の Case を想定しての課題を出してもらい、それを解くことで、学生に卒業後の疑似体験をしてもらうことにする。

Ⅲ-1-1 (2) 取組の背景と目的

(1) 取組の背景

経済学は、抽象思考を求められる。特に1年次においては基礎的な理論学習が中心とならざるを得ず、その傾向が強い。そのような現状から、自分が今勉強しているものが、将来の自分の能力となるという意識が持てない。つまり、経済学を勉強するモチベーションがわからないのである。そのために、2年次での勉強面での落ち込みを招き、3年次での就職活動まで影響してしまうという実態がある。そのようなことがないように、経済学を勉強する意欲を持たせることが重要となってくる。

(2) 取組までのプロセス

経済学部これまでの取り組みから、初年次におけるカリキュラム体系は整ってきたといえる。「基礎演習」や「経済数学入門」の新設による初年次教育における落ちこぼれを極力抑えるように工夫してきた。また、基幹科目である必修の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済と歴史」の授業方法を見直し、経済学になじみやすいような方法を工夫している。授業外でのSAの働きもあり、以前あったような初年次において授業についていけなくなるという事態は、かなり減少している。このような成果をあげてきたが、それでもまだ卒業後の就職と経済学のつながりは必ずしも強いものではない。

(3) 取組の目的

本取組の目的は、学生に経済学を勉強するモチベーションを与えることである。他の分野に比べて高校までの段階で、経済学の内容を明確に理解することは難しい。誤解を恐れずに述べると、初年次において学生は未知の世界に突入するのである。かなりの学生はその勉強の過程で経済学を勉強する意義に気がつくものとする。しかし、暗中模索の段階で混乱している学生もかなりの数に上るのではないかと考える。そのような学生が、明確な方向性を持つように働きかけることが、この「社会貢献と経済学」が目指

すところである。

Ⅲ－１－（３）「社会貢献と経済学」の内容

「社会貢献と経済学」では、次のような内容で講義を行った。

（１）キャリア教育

大学においてどのようにしてキャリアをつまなければならないか、キャリア教育の面での講義を行った。加えて、アカデミック・スキルについても勉強した。キャリアの面では、Pre My Map を用いて 4 年間の計画を考えることとした。それに加えて、具体例として就活の終わった 4 年生の体験談を 4 回聞いた。

10 月 24 日 岩沢

10 月 31 日 酒井

11 月 14 日 神谷

11 月 21 日 志水

（２）「就業力」の理解

「就業力」とはどのようなものであるかを理解できるような内容の授業を行った。これについては担当教員・職員とともに外部委託をして、専門家から講義を行ってもらった。

10 月 3 日 株式会社リアセック 酒井陽年氏の講義

（３）Case Study

3 人の社会人が事前に出題した Case Study を、グループごとに回答をまとめることにした OB・OG がビデオで出題した問題をもとに、メールで質問しながら、1 週間をかけて自分たちで独自に回答を作った。授業において回答をプレゼンテーションした後、出題した OB・OG から解説をしてもらった。

11 月 28 日 富士通ゼネラル 石塚幸一

12 月 5 日 三菱東京 UFJ 銀行 原幸子

12 月 19 日 MC マシナリー 小島伸幸

（４）自己評価

自分の就業に関する意識の変化を確認するために、簡単なレベル・チェックを 2 回行った。授業の最終日には、完成した就業力測定テスト（主観テスト）を実施した。これによって、「就業力」向上への意識が高まったと考えている。

（５）研修ツアー

実際に企業でどのような仕事が行われているかを見るために、希望者に対して 1 日の「研修ツアー」を行った。

1 月 7 日 サントリー府中工場、NHK 放送センター（渋谷）、

Ⅲ－１－（４）「社会貢献と経済学」における工夫

（１）グループワーク

「社会貢献と経済学」の授業では、1グループあたり4～5名のグループを作り、グループで授業を行うようにした。それによって、グループワークがうまくできるようになることを目指した。最近の学生は他人と協調して仕事をするのが苦手であるので、それを克服するための良いトレーニングと考えた。

（２）ディスカッションとプレゼンテーション

ディスカッションやプレゼンテーションのようなアカデミック・スキルを身につける機会を設けた。そのために、SAを活用した。

（３）外部講師の活用

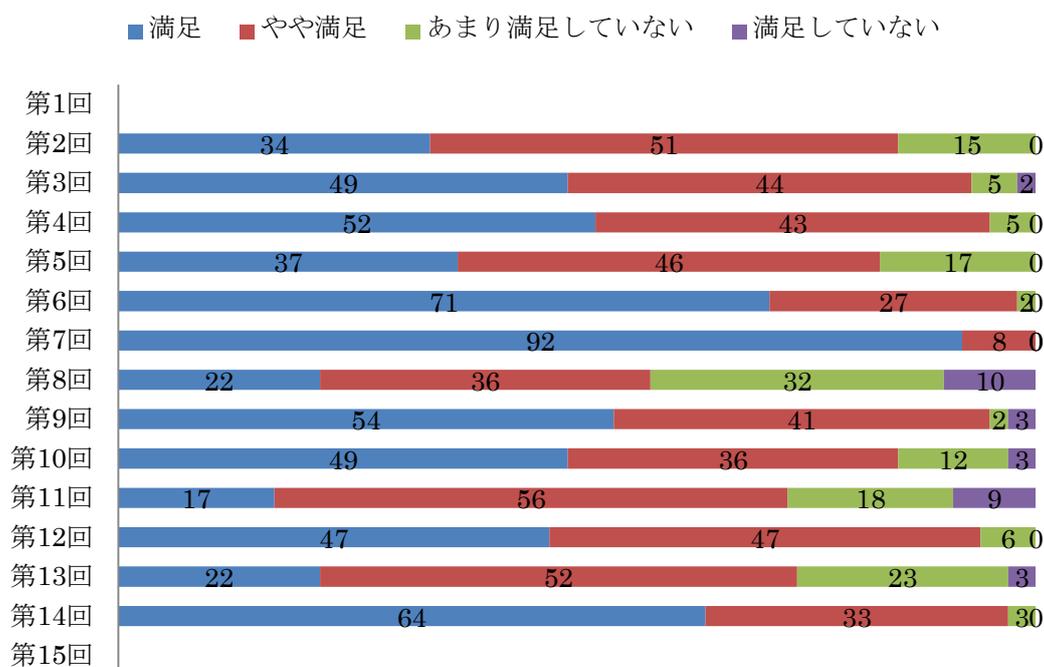
担当教員・職員はキャリア教育の専門家ではないので、必要に応じて外部講師を活用した。社会で活躍する卒業生を使用したのもその一環である。また、ゲストスピーカーの4年生による体験談の発表を行ったのも同様な考え方からである。

Ⅲ－１－（５）「社会貢献と経済学」の評価

「社会貢献と経済学」の授業では、毎回アンケートを採って学生が授業に向かう姿勢をチェックしている。それによると、この授業の前半では、他のキャリア教育との違いがわからず、戸惑っていたようであった。しかし、後半のCase Studyに入ってから、授業内容の方向性が明確になったことにより、学生の戸惑いも消えた。

図表Ⅲ－１－（５）－１

授業満足度推移

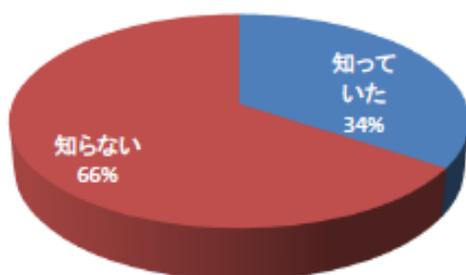


図表Ⅲ－１－（５）－２

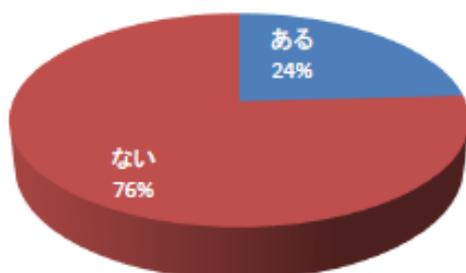
「社会貢献と経済学」
初回－最終回 アンケート結果比較
※初回と最終回どちらも出席した学生 29 名の回答を比較

初回

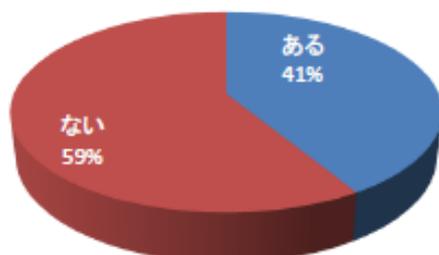
「就業力」という言葉を知っていましたか？



卒業後の進路に関して、
明確な目標はありますか？

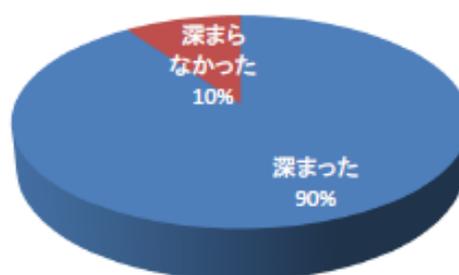


社会人になったときに、
自分がどのようなかたちで社会貢献をしたい
かというイメージはありますか？

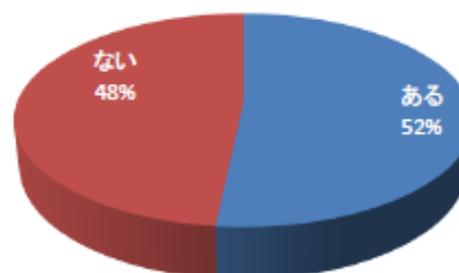


最終回

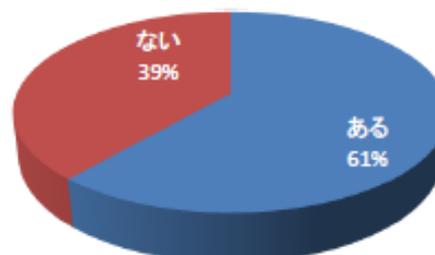
「就業力」への理解は深まりましたか？



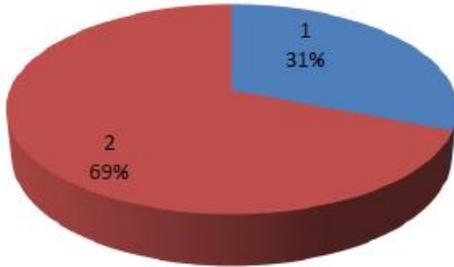
卒業後の進路に対して、
明確な目標はありますか？



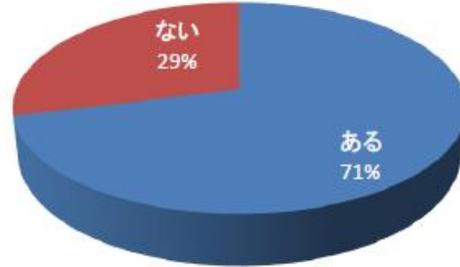
社会人になったときに、
自分がどのようなかたちで社会貢献をしたい
かというイメージはありますか？



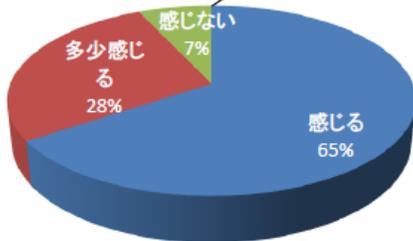
2年次以降の履修計画を考えたことはありますか？



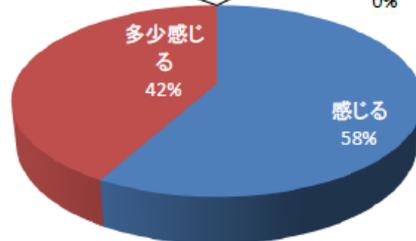
2年次以降の履修計画を考えたことはありますか？



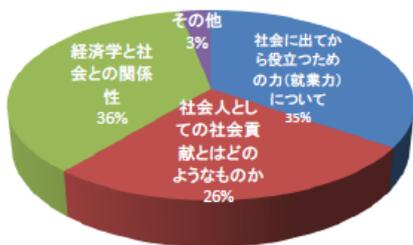
将来の進路(就職・進学等)に対して、不安を感じていますか？



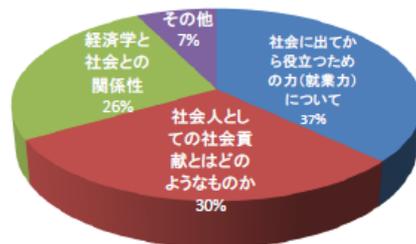
将来の進路(就職・進学等)に対して不安を感じていますか？



この授業を通して学びたいと思っていることは？



この授業を通して、学んだことは？



図表Ⅲ－１－（３）

時間	授業テーマ	主な授業内容
1	導入と現状の確認 (9/12)	クラスの中のグループ作りと自己紹介 授業の内容と進め方 宿題：創価大学に何を求めてきたかを書いてくる 自分の将来の希望を書いてくる
2	自分の夢と大学(9/19)	グループ内で自分の夢に関して話し合い グループ別に高校と大学の違いの発表と意見交換 大学に何を求めてきたかグループ内で共有 宿題：「何のために働くのか」、200字でまとめる
3	レベルチェックの実施 ①(9/26)	レベルチェックに関する講義 レベルチェックの実施 レベルチェックの実施 何のために働くのか 宿題：HP から「就業力」とは何かを調べてくる
4	就業力とは何か(10/3)	グループ内で宿題に関して意見交換 リアセックの「就業力」に関する話 経済学部で考えている就業力を講義 宿題：「就業力」を踏まえて「働くこと」のレポート作成
5	専門科目に潜む力 (10/17)	レポートのピア・アセスメント グループ別に高校までの教育について－ワールド・カフェ 専門科目の勉強をどのように考えたらよいか、講義 宿題：自分が受けた科目の内容を説明できるようにしてくる レポートの書き直し
6	今までの科目をどれだけ理解しているか (10/24)	グループ内で教えあおう グループ別にきちんと理解したかコメント 先輩の話第1回（岩沢） 宿題：「学校での勉強はどの様に役に立ったか」レポート作成
7	Pre My Mapの 作成(10/31)	Pre My Map に関する講義 Pre My Map の作成 4年生が描く Pre My Map（酒井） 宿題：グループごとに、生活の中での経済学を見つけてくる
8	生活の中での経済学さがし(11/7)	身の回りから経済学を探し出す 結果の報告（プレゼンテーション） グループの編成替え 宿題：企業研究 レポートの書き直し
9	レベルチェックの実施 ②(11/14)	グループ名決定・ミラーリングで自己紹介 レベルチェックの実施 レベルチェックの目指すものの解説 先輩の話第2回（神谷）
10	会社の中での経済学さがし①(11/21)	講師による問題提起 グループワークの仕方 まとめ方の解説 先輩の話第3回（志水） 宿題：企業研究 課題の回答を作る

11	経済学は社会に貢献している①（メーカー） （11/28）	担当：石塚（電機メーカー勤務） グループごとにプレゼンテーション 講師のプレゼンテーション 講師による問題提起－ビデオによる 宿題：企業研究 課題の回答を作る
12	経済学は社会に貢献している②（金融）（12/5）	担当：原（都市銀行勤務） グループごとにプレゼンテーション 講師のプレゼンテーション フロアからの意見 宿題：割り当てられた日経新聞の中から経済学を見つける
13	新聞の中での経済学さがし（12/12）	グループ内で宿題に関して意見交換 グループ別に宿題の内容を発表 フロアからの意見 講師による問題提起－ビデオによる 宿題：企業研究 課題の回答を作る
14	経済学は社会に貢献している③（商社）（12/19）	担当：小島（商社勤務） グループごとにプレゼンテーション 講師のプレゼンテーション フロアからの意見 宿題：もう一度「働くとはどのようなことか」のレポート作成
15	就業力テスト（主観的） の実施（1/16）	4年間計画の見直し 「就業力」テスト（主観的）の実施 当該授業に関する意見交換と総括的な講義 当該授業に関するアンケートの記入

Ⅲ－２．世界経済事情

「世界経済事情Ⅰ」（前期）・「世界経済事情Ⅱ」（後期）

Ⅲ－２－（１）講義の趣旨と特徴

本講義は、大学の教員スタッフではなく、主に商社のOB・OGを会員とするNPO法人「国際社会貢献センター（A B I C：Action for a Better International Community）」の講師によって行われる。A B I Cは、国際ビジネスを通じて多年にわたって培われたノウハウや豊富な人材を活用して、国内外で民間レベルの支援・交流活動を行いグローバルに社会貢献活動を推進することを目的として、主に貿易商社からなる日本貿易会によって設立されたNPOである。会員は現在2100名に上る。したがって、本講義の受講学生は、社会経験豊富な講師から実社会での経験を学びつつ、世界経済を見る視点を養うと同時に、学問と現実を架橋し、さらには実社会で必要とされる人材の要件、資質、スキルを知ることが期待される。

Ⅲ－２－（２）講義の内容

世界経済事情Ⅰでは、世界経済を機能別、課題別に地域横断的に理解できるよう編成されている。学部スタッフがコーディネーターとなり、多様なキャリアと背景を持つ8名のA B I C講師が担当するオムニバス形式の講義である。

各講義のテーマは以下のようなになる。

1. 講義の趣旨・概要と評価方法
2. 世界経済とエネルギー（2回）
3. 地球環境問題（2回）
4. 資源を巡る内外情勢（2回）
5. 世界の水と食糧（2回）
6. 外為と金融
7. ODA－概要と実践
8. NPO概論（2回）
9. IT-情報技術とビジネスの未来
10. 総括

世界経済事情Ⅱでは、世界経済を地域別に、特に近年台頭目覚ましい、ブラジル、ロシア、中国等のBRICSとEU、東南アジア諸国の地域経済と生活に関して理解できるよう編成されている。

各講義の内容、テーマは以下のようなになる。

1. 講義の趣旨・概要と評価方法
2. ブラジル・南米の経済と生活（2回）
3. ロシア（2回）の経済と生活
4. インド（2回）の経済と生活

5. 中近東の経済と生活
6. 中国（2回）の経済と生活
7. ASEAN地域の経済と生活
8. 拡大EUの経済と生活
9. 異文化と共生
10. 総括

Ⅲ－２－（３）講義の課題・アンケート、履修数

毎回の講義において、3つのキーワード調べを課題として学生に課し、事前に学習支援ポータルサイト（PLAS）に提出することを求めている。予習を促し、講義に関心を持って参加させるためである。

また、学習支援ポータルサイトの授業アンケート機能を活用し、評価と質問を毎回の講義の後に提出してもらっている。次回の講義において、質問についてフィードバックするよう努めている。

成績評価は、毎回のキーワード課題の提出と学期末レポート、またアンケートの回答状況等の平常点も勘案し評価している。

履修学生は2年生、3年生が主体であり、2011年度の履修者数は前期の世界経済事情Ⅰは123人、後期の世界経済事情Ⅱは155人であった。

Ⅲ－２－（４）本講義の成果

本講義はA B I Cと連携し、開設して以来約10年が経過しており、特にキャリア教育との連携では、以下のような成果が挙げられる。第一に多くの講師が商社、企業のOBやOGであるので、卒業後の進路を考える学生にとって、貴重な機会を提供している。すなわち、一つの社会人のモデルを提供し、またどのように世界を理解し、行動すべきなのかを考える際の参考となる。第二に社会で望まれる人材像、また必要な資質、スキルは何かについて一つの示唆を与えており、具体的な学習計画、また学修への意欲を高めている。第三に基礎的な経済の理論を学んだところである2年次の学生が多く履修する科目であり、本講義で実際の世界経済の事情を知ることにより、理論と現実の関係を考えること、相互の往復作業を促す。

Ⅲ－３．Business and Japanese People

2009年度より、A B I C（特定非営利活動法人・社会貢献センター）によるBusiness and Japanese Peopleを後期に開講している。同講義は、商社・銀行などを定年退職したベテラン・ビジネスマンが英語で、自らの体験に基づくビジネス論が展開された。

就業力GPが開始された2010年度よりは、社会人による実学的教育の一環としても位置づけられ、以下の表に示すように履修者も増加した。

図表Ⅲ－３－（１）

年度	日本人学生	留学生	計
2009	4	3	7
2010	9	9	18
2011	12	10	22

また、留学生の出身地も、アメリカ、フランス、シンガポール、ベトナム、インド、ブラジル、ドミニカ、ガーナ、セネガルと多様である。

参考資料 Business and Japanese People のシラバス

■ Course Introduction

In addition to lectures on Japanese economic development and its business practices, this course will introduce the views and opinions of Japanese business professionals with vast experience in conducting international business. Hence, the course is arranged in as a series of omnibus lectures and with speakers from wide array of business sectors and outstanding international careers. The course will basically cover the relationship between Asia and Japan, secrecy the causes of Japanese economic growth after the war, the essence of Japanese management practices, the delicacy of cross-cultural thinking from a Japanese viewpoint, and the views on globalization as well as multi-national companies. Albeit not with rigorous theoretical treatment of the subject matter, the course will include concrete case studies as experienced by the lecturers which will surely invite spark students' interest to in the real business world.

■ Course Topics.

- Lecture 1 course orientation Asia and Japan Part I
- Lecture 2 Asia and Japan Part II
- Lecture 3 Short history of Japanese economic growth Part I
- Lecture 4 Short History of Japanese economic growth Part II
- Lecture 5 Corporate Management in Japan Part I
- Lecture 6 Corporate Management in Japan Part II
- Lecture 7 Differences of in business philosophy, rules, customs and various behaviors between Japan and other countries Part I(Comparison: America and Japan)

Lecture 8	Differences of in business philosophy, rules, customs and various behaviors between Japan and other countries Part II(Comparison: America and Japan)
Lecture 9	Differences of in business philosophy, rules, customs and various behaviors between Japan and other countries Part III(Comparison: China and Japan)
Lecture 10	Differences of in business philosophy, rules, customs and various behaviors between Japan and other countries Part IV(Comparison: China and Japan)
Lecture 11	Differences of in business philosophy, rules, customs and various behaviors between Japan and other countries Part V (Overall Comparison)
Lecture 12	Globalization and multi-national corporations Part I
Lecture 13	Globalization and multi-national corporations Part II
Lecture 14	What will be required for you to live in the international business world?
Lecture 15	Q&A on topics covered throughout the course, open discussion with lecturers for your starting your business life. Summary and conclusion of the course.

■ Course Objectives

1. To provide an overview of the features of business in Japan and their backgrounds like including ways of thinking, rules, habits and culture.
2. To compare Japanese behaviors with those and internationally common behaviors through practical cases studies.
3. For students to form a handhold foundation for building their own opinions by learning historical facts and listening to lecturers' experiences.

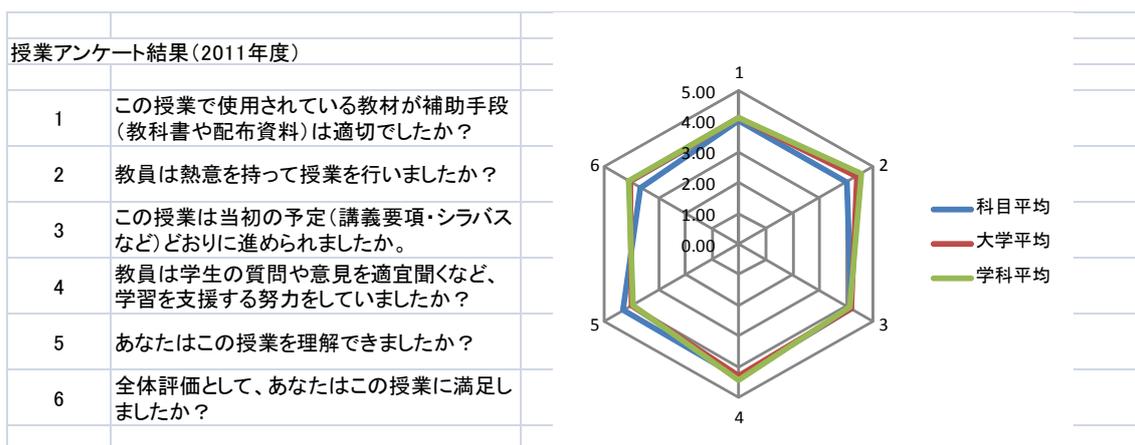
■ Grading

It is considered to combine all Grades will be based on a combination of the mid-term and final examinations, Research Paper and Presentation, Classroom participation and Weekly Assignments. Details are to be decided after discussions by between the lecturers and the instructor, and will be announced at the earliest possible date.

Textbook and references:

In this course no textbooks are used. In principle the lecturer will give his own material each time as a basis for his lesson, and reference readings for each topic are will be recommended at the earliest suitable opportunity. However, as standard reading materials on the subject, a list of recommended books is will be offered.

図表Ⅲ－３－（２）



5.00 が最高点